# 原単位の改善のための取組に関する状況 【2024年度提出分（2023年度実績）】

| | |
|---|---|
| 株式会社神鋼環境ソリューション<br>（Kobelco Eco-Solutions Co.,Ltd.） | |

| | |
|---|---|
| 銘柄コード | - |
| 法人番号 | 4140001008256 |

| 日本標準産業分類 | コード | 項目名 |
|---|---|---|
| 中分類 | 26 | 生産用機械器具製造業 |
| 細分類<br>（申請事業） | 2652 | 化学機械・同装置製造業 |
| エネルギー管理統括者 | 【役職】 取締役 執行役員 品質環境防災部担当<br>【氏名】 中村 学 | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| エネルギー総使用量 | 129,727 | GJ | 3,347 | kℓ |
| 前年度エネルギー総使用量 | | | 3,642 | kℓ |
| 非化石エネルギー総使用量 | 39,916 | GJ | 1,030 | kℓ |
| 調整後温室効果ガス排出量 | 4,931 | | t-$CO_2$ | |

**【エネルギーの使用の合理化】**

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 主たる事業における<br>エネルギー消費原単位※注<br>（2023年度実績） | 0.97 | 原単位分母<br>換算生産重量(トン) | | | | |
| | 主たる事業の構成割合 | 75.6 | % | | | |
| 事業者全体の<br>エネルギー消費原単位<br>対前年度比 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 |
| | | 94.9 | 112.9 | 92.0 | 102.4 |
| 事業者全体の<br>5年度間平均原単位変化（%） | 100.2 | | | | |

※ 主たる事業は、必ずしもエネルギー消費量の多寡で決定されるものではなく、日本標準産業分類の考え方に基づき各事業者が決定したもの。

**【電気の需要の最適化】**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 主たる事業における<br>電気需要最適化評価原単位<br>（2023年度実績） | 1.01 | 原単位分母<br>換算生産重量(トン) | | | |
| DR実施日数 | 0 | | | | |
| 事業者全体の<br>電気需要最適化評価原単位<br>対前年度比 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 |
| | | 94.9 | 113.1 | 92.1 | 102.5 |
| 事業者全体の<br>5年度間平均原単位変化 | 100.3 | | | | |

**【ベンチマーク指標の状況（合理化）】**

| | | |
|---|---|---|
| ベンチマーク区分 | - | - |
| 目指すべき水準 | - | |
| ベンチマーク指標の状況 | - | |
| ベンチマーク区分 | - | - |
| 目指すべき水準 | - | |
| ベンチマーク指標の状況 | - | |
| ベンチマーク区分 | - | - |
| 目指すべき水準 | - | |
| ベンチマーク指標の状況 | - | |
| ベンチマーク区分 | - | - |
| 目指すべき水準 | - | |
| ベンチマーク指標の状況 | - | |

**【調整後温室効果ガス排出量の算定に用いた認証排出削減量等の量】**

| 種別 | 合計量 | |
|---|---|---|
| Jクレジット | - | t-CO2 |
| - | - | t-CO2 |
| - | - | t-CO2 |
| - | - | t-CO2 |

**【非化石エネルギーへの転換】**

| 電気の非化石比率 | 事業者全体で使用する電気 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 目標（2030年度） | 93.0% | | | | |
| 直近5年度間の実績値 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 |
| | | | | | 55.9% |
| 目安設定業種 | - | - | | | |
| 目安（2030年度） | - | | | | |
| | - | | | | |
| 目標（2030年度） | - | | | | |
| 直近5年度間の実績値 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 |
| | | | | | - |
| 目安設定業種 | - | - | | | |
| 目安（2030年度） | - | | | | |
| | - | | | | |
| 目標（2030年度） | - | | | | |
| 直近5年度間の実績値 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 |
| | | | | | - |

**【取組の概要：業界の事情等を考慮した取組について（定量指標）】**

**【取組の概要：業界の事情等を考慮した取組について（定性的事項）】**

**1. エネルギーの使用の合理化に関する事項**

省エ ネルギー の推進と CO2排出量の削減に関し て 、年度目標を設定し 、継続的改善を推進している。
主な推進活動は、工場の空調制御及び照明の消灯、空調設備および照明設備の更新タイミ ングでの省エネ型機器導入。

**2. 非化石エネルギーへの転換に関する事項**

2023年10 月 1 日から、CO2 フリー電力を主要3拠点（本社、技術研究所、播磨製作所)に導入しました。CO2 フリー電力は、発電時に CO2 を排出しない再生可能エネルギー由来の電力です。今回の導入により、2030 年度には年間約 3,000 トンの CO2 削減（2013 年度比約 50%削減：当社試算）が見込まれます。2023 年 4 月に施行された改正省エネ法に対応し、日本政府が掲げる温室効果ガスの排出削減目標の達成に貢献してまいります。

**【取組の概要：カーボンニュートラルに向けて】**

**1. 自由記述欄（カーボンニュートラルの実現等に資する事業者独自の取組や革新的技術に係る研究開発等の取組について）**

日本下水道事業団(JS)と共同で、下水処理におけるカーボンニュートラルの実現に向けた「水熱炭化技術（本技術）」の実証実験を開始しました。本実証実験は、JS の公募型共同研究「循環型社会の実現に向けた下水汚泥資源の利活用技術の開発」で当社が共同研究者として選定され、富士市西部浄化センター（静岡県富士市宮島 1260 番地）で開始しました。従来、下水汚泥を炭化方式で固形燃料化する際には、水分を除去する乾燥の工程と、有機物を蒸し焼きする炭化の工程が必要であり、多くのエネルギーを必要としていました。それに対し、本技術では汚泥を低温かつ湿式（液中で反応を進める方式）状態で炭化することで、固形燃料化に要するエネルギーを大幅に削減することが可能になります。そのため、本技術に必要な熱源は発電機等の排熱のみで賄えることが最大の特徴となっています。

**2. 関連リンク**

| | | |
|---|---|---|
| 下水処理におけるカーボンニュートラルの実現へ | : | https://www.kobelco-eco.co.jp/topics/news/2023/20231206.html |
| 再生可能エネルギー由来のCO2フリー電力導入 | : | https://www.kobelco-eco.co.jp/topics/news/2023/20231002.html |
| 廃棄物処理関連施設のCO2削減への貢献 | : | https://www.kobelco-eco.co.jp/topics/news/2023/20240229.html |

（注意事項）
・赤枠囲み欄は必須記載です。
・再生可能エネルギー電気の利用の促進に関する特別措置法第37条第1項の規定による、賦課金に係る特例の適用を受ける期間においては、情報の公表を継続する必要があります。

# 原単位の改善のための取組に関する状況 【2024年度提出分（2023年度実績）】

**株式会社神鋼環境ソリューション （兵庫西維持管理事業所）**
（KOBELCO ECO-SOLUTIONS CO.,LTD.）

| 銘柄コード | － |
|---|---|
| 法人番号 | 4140001008256 |

| 日本標準産業分類 | コード | 項目名 |
|---|---|---|
| 中分類 | 26 | 生産用機械器具製造業 |
| 細分類（申請事業） | 2609 | その他の管理、補助的経済活動を行う事業所 |
| エネルギー管理統括者 | 【役職】<br>【氏名】 | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| エネルギー総使用量 | 395,180 | GJ | 10,196 | kℓ |
| 前年度エネルギー総使用量 | | | | kℓ |
| 非化石エネルギー総使用量 | | GJ | | kℓ |
| 調整後温室効果ガス排出量 | | | t-$CO_2$ | |

**【エネルギーの使用の合理化】**

| 主たる事業におけるエネルギー消費原単位※注（2023年度実績） | | 原単位分母 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 主たる事業の構成割合 | | | | % |
| 事業者全体のエネルギー消費原単位対前年度比 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 |
| | | | | | |
| 事業者全体の5年度間平均原単位変化（%） | | | | | |

※ 主たる事業は、必ずしもエネルギー消費量の多寡で決定されるものではなく、日本標準産業分類の考え方に基づき各事業者が決定したもの。

**【調整後温室効果ガス排出量の算定に用いた認証排出削減量等の量】**

| 種別 | 合計量 | |
|---|---|---|
| **Jクレジット** | － | t-CO2 |
| － | － | t-CO2 |
| － | － | t-CO2 |
| － | － | t-CO2 |

**【電気の需要の最適化】**

| 主たる事業における電気需要最適化評価原単位（2023年度実績） | － | 原単位分母 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | － | | | |
| DR実施日数 | － | | | | |
| 事業者全体の電気需要最適化評価原単位対前年度比 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 |
| | | － | － | － | － |
| 事業者全体の5年度間平均原単位変化 | － | | | | |

**【非化石エネルギーへの転換】**

| 電気の非化石比率 | 事業者全体で使用する電気 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 目標（2030年度） | **5.0%** | | | | |
| 直近5年度間の実績値 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 |
| | | | | | **0.0%** |
| 目安設定業種 | － | | － | | |
| 目安（2030年度） | － | | | | |
| | － | | | | |
| 目標（2030年度） | － | | | | |
| 直近5年度間の実績値 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 |
| | | | | | － |
| 目安設定業種 | － | | － | | |
| 目安（2030年度） | － | | | | |
| | － | | | | |
| 目標（2030年度） | － | | | | |
| 直近5年度間の実績値 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 |
| | | | | | － |

**【ベンチマーク指標の状況（合理化）】**

| ベンチマーク区分 | － | － |
|---|---|---|
| 目指すべき水準 | － | |
| ベンチマーク指標の状況 | － | |
| ベンチマーク区分 | － | － |
| 目指すべき水準 | － | |
| ベンチマーク指標の状況 | － | |
| ベンチマーク区分 | － | － |
| 目指すべき水準 | － | |
| ベンチマーク指標の状況 | － | |
| ベンチマーク区分 | － | － |
| 目指すべき水準 | － | |
| ベンチマーク指標の状況 | － | |

**【取組の概要：業界の事情等を考慮した取組について（定量指標）】**

**【取組の概要：業界の事情等を考慮した取組について（定性的事項）】**

**1. エネルギーの使用の合理化に関する事項**

当事業所では下水汚泥の集約処理施設として、脱水・焼却および溶融処理を行い溶融スラグを生成しています。汚泥濃縮設備への低動力装置採用など、老朽化設備における高効率・省電力設備への更新提案や、脱水ろ液の処理における、曝気・撹拌強度の最適化による電力削減などを通じて、エネルギー使用の合理化・効率化に取り組んでいます。

**2. 非化石エネルギーへの転換に関する事項**

本社ビル、技術研究所、播磨製作所の自社主要3拠点において、発電時に$CO_2$を排出しない再生可能エネルギー由来の電力である$CO_2$フリー電力を導入し、非化石エネルギーへの転換を図っています。当事業所においても、費用対効果等を勘案しながら$CO_2$フリー電力の導入に関する検討を行っていく予定です。

**【取組の概要：カーボンニュートラルに向けて】**

**1. 自由記述欄（カーボンニュートラルの実現等に資する事業者独自の取組や革新的技術に係る研究開発等の取組について）**

**2. 関連リンク**

| （　タイトル　） | ： | （URL） |
|---|---|---|
| （　タイトル　） | ： | （URL） |
| （　タイトル　） | ： | （URL） |

（注意事項）
・赤枠囲み欄は必須記載です。
・再生可能エネルギー電気の利用の促進に関する特別措置法第37条第1項の規定による、賦課金に係る特例の適用を受ける期間においては、情報の公表を継続する必要があります。